

# 地 域 再 生 計 画

## 1 地域再生計画の名称

昭和の町拠点施設利用促進事業計画

## 2 地域再生計画の作成主体の名称

豊後高田市

## 3 地域再生計画の区域

豊後高田市の区域の一部（中心市街地活性化区域）

## 4 地域再生計画の目標

本市は、人口2万3千余りの小さな過疎市であり、江戸時代にかけて築かれた城下町に端を発し、年貢米を積み出す港町として栄え、明治時代に入り、その街並みの骨格の上に商店街が形成され、以降、国東半島の交通の起点として商業が栄えていた。このような基盤を背景として昭和30年代には中心市街地は、市外からも買い物客が押し寄せる「おまち」としてピークを迎えていた。しかしながら昭和40年に宇佐参宮鉄道の廃線や自動車の普及により人の流れに変化が起こったこと、平成に入り、郊外に大型店が進出したことなどから、中心市街地も急速に衰退し続けた。

このような状況の中、衰退する商店街にかつての賑わいを取り戻そうと、官民一体となって取り組みを進めた。商業者、豊後高田商工会議所、行政の3者が9年にわたり、議論に議論を重ね商店街が一番元気だった「昭和30年代」をテーマにまちづくりを行い、商業と観光の一体的振興をコンセプトに、平成13年9月に商店街を観光地とした「昭和の町」をスタートさせた。当初、観光客数5万人を目標にしていたが、オープンから2年で約20万人の観光客が訪れ、平成17年には、昭和の町の運営に特化した豊後高田市観光まちづくり株式会社を設立した。

また、昭和の町に隣接する農業倉庫を観光拠点施設「昭和ロマン蔵」として段階的に整備し、平成14年に「駄菓子屋の夢博物館」、平成17年には「昭和の絵本美術館」、平成19年には「昭和の夢町三丁目館」を整備、さらに、平成22年度には隣接する中央公園の大規模改修を行い、市内外の家族連れのリフレッシュの場として一般利用を含め、多くのイベントを実施し、平成23年度には年間約40万人の観光客が訪れる観光地となった。

しかしながら、平成19年の「昭和の夢町三丁目館」の整備から大規模改修も行っておらず、また観光客の多様なニーズへの対応ができなかったことから、平成27年度には36万人まで観光客が落ち込んでいる。

こうした状況に対応するため、入館客の落ち込みが激しい昭和ロマン蔵の「絵本美術館」をアミューズ性の高いデジタルアート作品を体験できる施設へと改修を行

い、地域の親子から、観光客まで幅広い年代で楽しめる体験型現代アート作品を展示することで、新規観光客の増加を図ることで観光振興により地域活性化を目指す。

「昭和ロマン蔵」へのデジタルアート導入による魅力アップにより、観光客の拡大と滞在時間の増加により中心市街地の更なる活性化を図るとともに、都市からの移住を促進するものである。

【数値目標】

	事業開始前 (現時点)	平成28年度 (1年目)	平成29年度 (2年目)	平成30年度 (3年目)
昭和の町年間来街者数 (昭和ロマン蔵)	360,000人	0人	20,000人	10,000人
昭和ロマン蔵有料施設入館者数	54,000人	0人	10,000人	7,000人
昭和の町滞在時間 (昭和ロマン蔵)	80分	0分	10分	10分

※数値は増加値

	平成31年度 (4年目)	平成32年度 (5年目)	KPI増加分の 累計
昭和の町年間来街者数 (昭和ロマン蔵)	5,000人	5,000人	40,000人
昭和ロマン蔵有料施設入館者数	5,000人	4,000人	26,000人
昭和の町滞在時間 (昭和ロマン蔵)	10分	10分	40分

5 地域再生を図るために行う事業

5-1 全体の概要

本市の中心市街地のまちづくりは、発想の転換による時代に逆走した「昭和30年代」をコンセプトにまちづくりを進め、商店街の修景事業や図書館、市の中心部を流れる桂川の橋梁の整備、市民に親しまれる中央公園の改修など、ハードとソフト両面でまちづくりに取り組み、全国的にも成功事例として、平成24年度にまち交大賞を受賞している。

しかしながら、店主の高齢化、観光拠点施設の未整備や観光ニーズの変化に対応できずに観光客、定住人口が減少している。

昭和の町オープン時の店主、商工会議所、行政、さらにまちづくり会社が加わり、移住者の創業支援を強化するとともに、拠点施設の昭和ロマン蔵の魅力アップを行うことで交流人口と移住者数の増加を図るなか地域に合った産業振興を推進し、訪れたい、住みたいまちづくりを行う。

## 5-2 第5章の特別の措置を適用して行う事業

### (1) 地方創生拠点整備交付金（内閣府）：【A3007】

#### ① 事業主体

豊後高田市

#### ② 事業の名称：昭和の町拠点施設利用促進事業計画（昭和ロマン蔵）

#### ③ 事業の内容

本市、中心市街地商店街は、宇佐参宮鉄道の廃線、マイカーの普及や郊外への大型店舗の進出に伴い、「犬と猫しか歩かない商店街」と揶揄され中心市街地の空洞化が進み、シャッター通りと化した。平成13年度からの「昭和の町」の取り組みをはじめ、平成19年5月に認定を受けた「豊後高田市中心市街地活性化計画」をバイブルとして、商業者、商工会議所、観光まちづくり株式会社、市の4者一体となって、「昭和の町」を進化させてきた結果、平成23年で年間40万人の観光客が訪れるようになった。

しかしながら、中心市街地の観光・交流の拠点施設である昭和ロマン蔵の改修も平成19年には完了し、その後、大規模な施設整備を行っていないため、観光客数が平成23年の40万人から、平成27年には36万人まで観光客が減少している。そのような状況の中、昭和の町の入口にある「昭和ロマン蔵」の有料施設入館者数も激減しているため、子どもから大人まで楽しめるデジタルアートの体験館を整備するとともに、市内にある既存のデジタルアートと連携することにより、双方の施設の魅力を向上させ広域観光の推進及び交流人口の増加と観光消費額の増加を図る。

#### ④ 事業が先導的であると認められる理由

##### 【自立性】

昭和ロマン蔵や中央商店街駐車場等多くの観光施設を運営する豊後高田市観光まちづくり株式会社は、約7割を市が出資する第三セクターである。平成17年の設立以来、昭和の町をマネジメントし、独立採算で経営しているが、収益力や人材不足などの面で大きな課題がある。

今回、新たな施設整備により入館者数の増加による入館料及び駐車場収入の増加を図り、経営の安定化を図り雇用の創出に繋げていく。

##### 【官民協働】

市と「昭和ロマン蔵」を管理運営する豊後高田市観光まちづくり株式会社、デジタルアートを手掛ける先進的な民間企業の3者が連携することにより、観光客ニーズを捉えた魅力的な施設改修とコンテンツの提供により、集客力向上を図る。

また、既存のデジタルアート展示施設との連携による相乗効果で、新たな観光資

源の創出を図るとともに、商店街、経済団体、豊後高田市観光まちづくり株式会社及び市が連携した商店街への回遊促進イベント等を実施することで、「昭和の町」全体の魅力を高めるとともに、市内全域での回遊性の向上と地域経済の活性化を図る。

**【政策間連携】**

「訪れたいまち」と「住みたいまち」を具現化するため、中心市街地の観光拠点施設「昭和ロマン蔵」を整備することで、新たな観光客の入込を増加させるとともに、滞在型、着地型観光の推進により、都市圏からの人の流れをつくるとともにインバウンド対策にも努めて行く。

さらに、観光客が増加することに伴い、移住者による空き店舗を活用した起業支援を積極的に行い雇用の創出に努める。

**⑤ 重要業績評価指数（KPI）及び目標年月**

**【数値目標】**

	事業開始前 (現時点)	平成28年度 (1年目)	平成29年度 (2年目)	平成30年度 (3年目)
昭和の町年間来街者数	360,000人	0人	20,000人	10,000人
昭和ロマン蔵有料施設入館者数	54,000人	0人	10,000人	7,000人
昭和の町滞在時間	80分	0分	10分	10分

※数値は増加値

	平成31年度 (4年目)	平成32年度 (5年目)	KPI増加分の 累計
昭和の町年間来街者数	5,000人	5,000人	40,000人
昭和ロマン蔵有料施設入館者数	5,000人	4,000人	26,000人
昭和の町滞在時間	10分	10分	40分

**⑥ 評価の方法、時期及び体制**

毎年度、3月末時点のKPIの達成状況を企画情報課が取りまとめて、外部有識者によるKPI達成状況の効果検証や議会の関与を得ながら検証結果報告をまとめる。

また、必要に応じて地方版総合戦略や今後の事業経営方針に反映させる。検証結果は、豊後高田市ホームページで公表する。

⑦ 交付対象事業に要する経費

① 法第5条第4項第1号イに関する事業【A3007】

昭和の町拠点施設利用促進事業計画（昭和ロマン蔵） 7,717千円

⑧ 事業実施期間

地域再生計画認定の日から、平成33年3月31日（5カ年度）

5-3 その他の事業

5-3-1 地域再生基本方針に基づく支援措置

該当なし

5-3-2 支援措置によらない独自の取組

(1) 活力アップ戦略的商店街活性化総合支援事業（昭和の町修景事業）

事業概要：昭和の町の景観統一のため、4つの再生（昭和の建築再生、昭和の歴史再生、昭和の商品再生、昭和の商人再生）に取り組む商店主に対し、店舗の改修工事費の2/3補助することで街並みの景観向上を図る。

実施主体：豊後高田商工会議所

事業期間：平成28年度～32年度

(2) 起業チャレンジ若者支援事業・起業チャレンジウェルカム支援事業

事業概要：市内の若者、移住者が本市で創業を行う際、店舗改修費など初期コストを支援するとともに、経営相談にも対応することで起業支援を行う。

実施主体：豊後高田市

事業期間：平成28年度～32年度

(3) イベント支援事業

事業概要：民間が行うイベントや伝統芸能イベントなど中央公園等で開催されるイベント費を助成し、賑わい創出に努める。

実施主体：豊後高田市

事業期間：平成28年度～32年度

6 計画期間

地域再生計画認定の日から平成33年3月31日（5カ年度）

7 目標の達成状況に係る評価に関する事項

7-1 目標の達成状況に係る評価の手法

外部有識者によるKPI達成状況等の効果検証等、PDCAサイクルにより実施する。評価結果を踏まえ、目標の効果的な実現に向けて商工会議所、商店街、観光まち

づくり会社と連携し、積極的なイベントなどの事業実施を行う。

目標1 昭和の町年間来街者数については、昭和ロマン蔵出入り口にあるカウンターで日ごとの集計で年間来街者を把握する。

目標2 昭和ロマン蔵のチケット販売数により、月毎に集計し入館者数を把握する。

目標3 毎年、年2回、昭和の町で行っている来街者アンケートにより年度末に集計し把握する。

## 7-2 目標の達成状況に係る評価の時期及び評価を行う内容

### 【数値目標】

	事業開始前 (現時点)	平成28年度 (1年目)	平成29年度 (2年目)	平成30年度 (3年目)
昭和の町年間来街者数 (昭和ロマン蔵)	360,000人	0人	20,000人	10,000人
昭和ロマン蔵有料施設入館者数	54,000人	0人	10,000人	7,000人
昭和の町滞在時間 (昭和ロマン蔵)	80分	0分	10分	10分

※数値は増加値

	平成31年度 (4年目)	平成32年度 (5年目)	KPI増加分の 累計
昭和の町年間来街者数 (昭和ロマン蔵)	5,000人	5,000人	40,000人
昭和ロマン蔵有料施設入館者数	5,000人	4,000人	26,000人
昭和の町滞在時間 (昭和ロマン蔵)	10分	10分	40分

## 7-3 目標の達成状況に係る評価の公表の手法

目標の達成状況については、検証後速やかに豊後高田市ホームページで公表する。